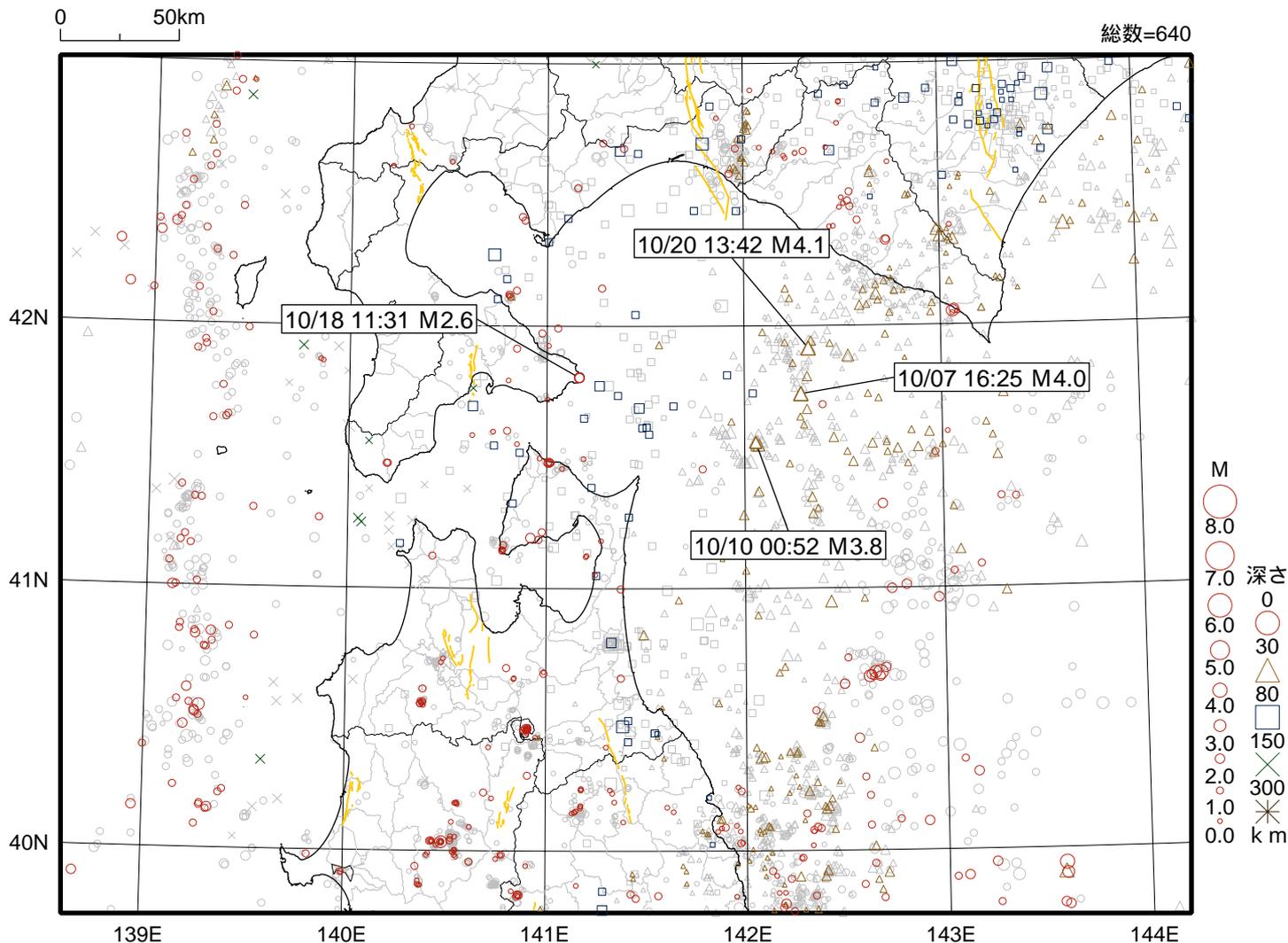


渡島・檜山地方の地震活動図

2019年10月1日～2019年10月31日

震央分布図

函館地方気象台



これは暫定値であり、データは後日変更することがあります。

記号Mはマグニチュードを表します。

図中橙色の線は地震調査研究推進本部による主要活断層を表します。

過去の地震活動と比較するため、前3ヶ月（今期間を含まない）の震央を灰色のシンボルで表します。

地震概況（2019年10月）

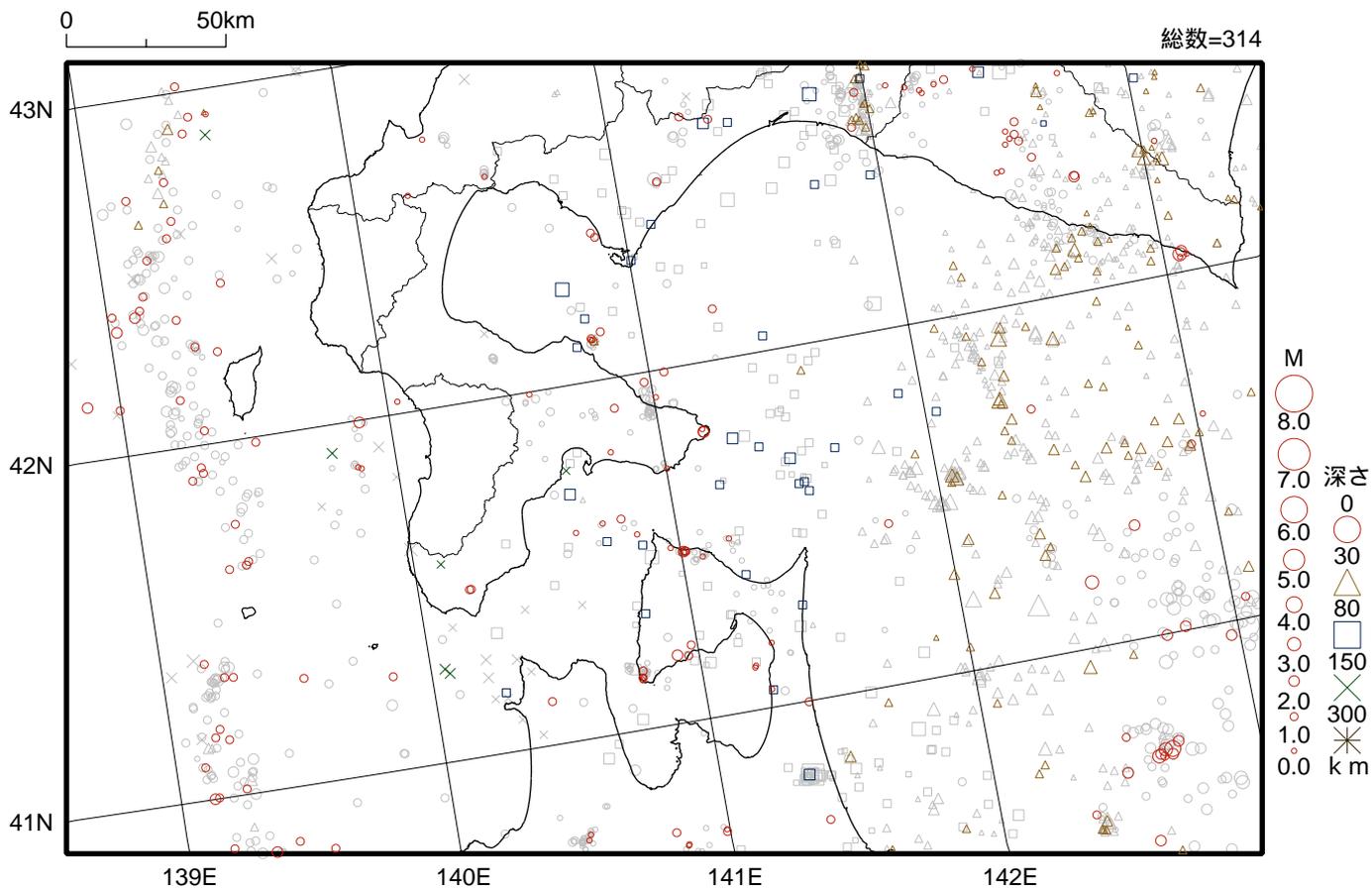
この期間、渡島・檜山地方の震度観測点で震度1以上を観測した地震は4回（前月は2回）発生しました（「震度1以上を観測した地震の表」参照）。

7日16時25分、浦河沖の地震（M4.0、深さ66km）により、函館市泊町で震度2、函館市新浜町で震度1を観測しました。

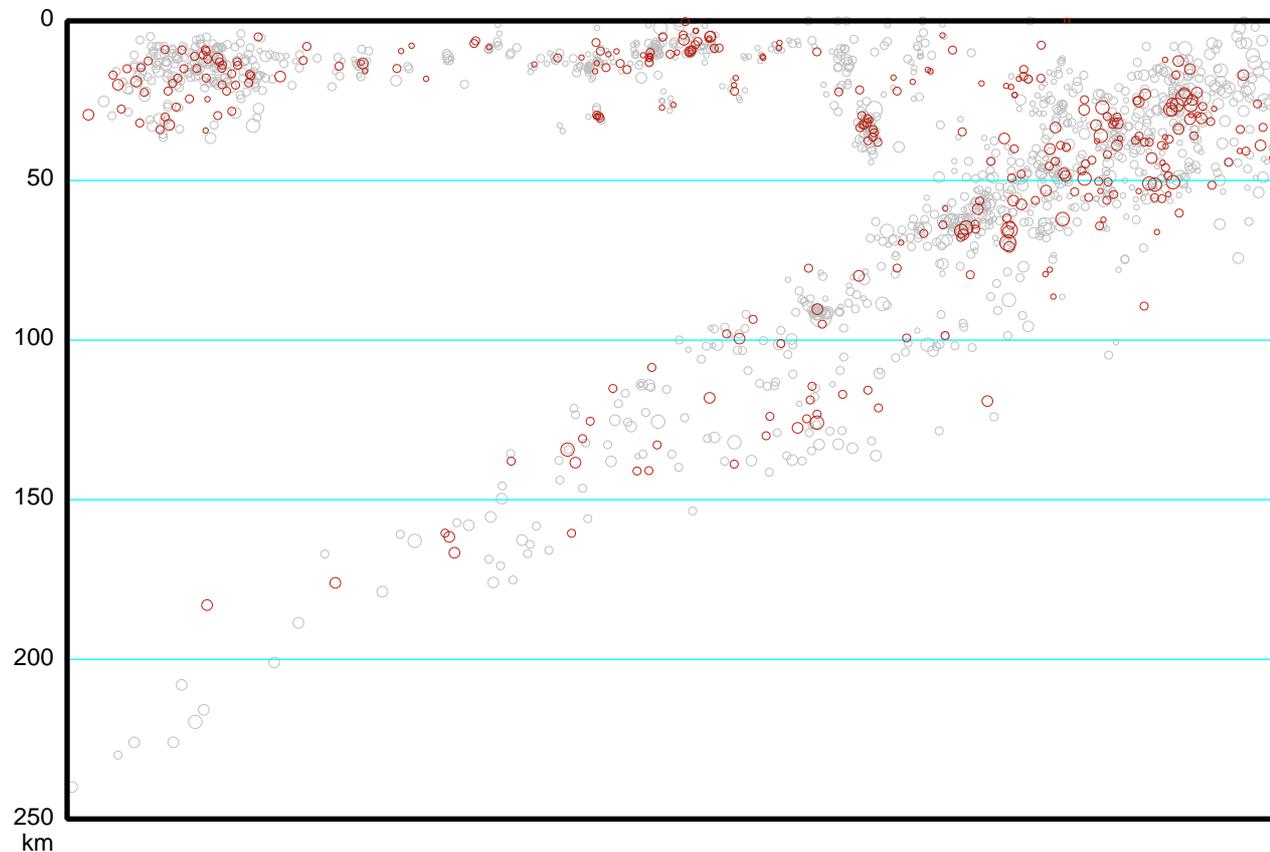
この活動図は、函館地方気象台のホームページに掲載しておりますのでご利用ください。
ホームページのアドレスは、「<https://www.jma-net.go.jp/hakodate-c/>」です。

2019年10月1日 ~ 2019年10月31日

震央分布図



断面図



これは暫定値であり、データは後日変更することがあります。
記号Mはマグニチュードを表します。
過去の地震活動と比較するため、前3ヶ月（今期間を含まない）の震央を灰色のシンボルで表します。

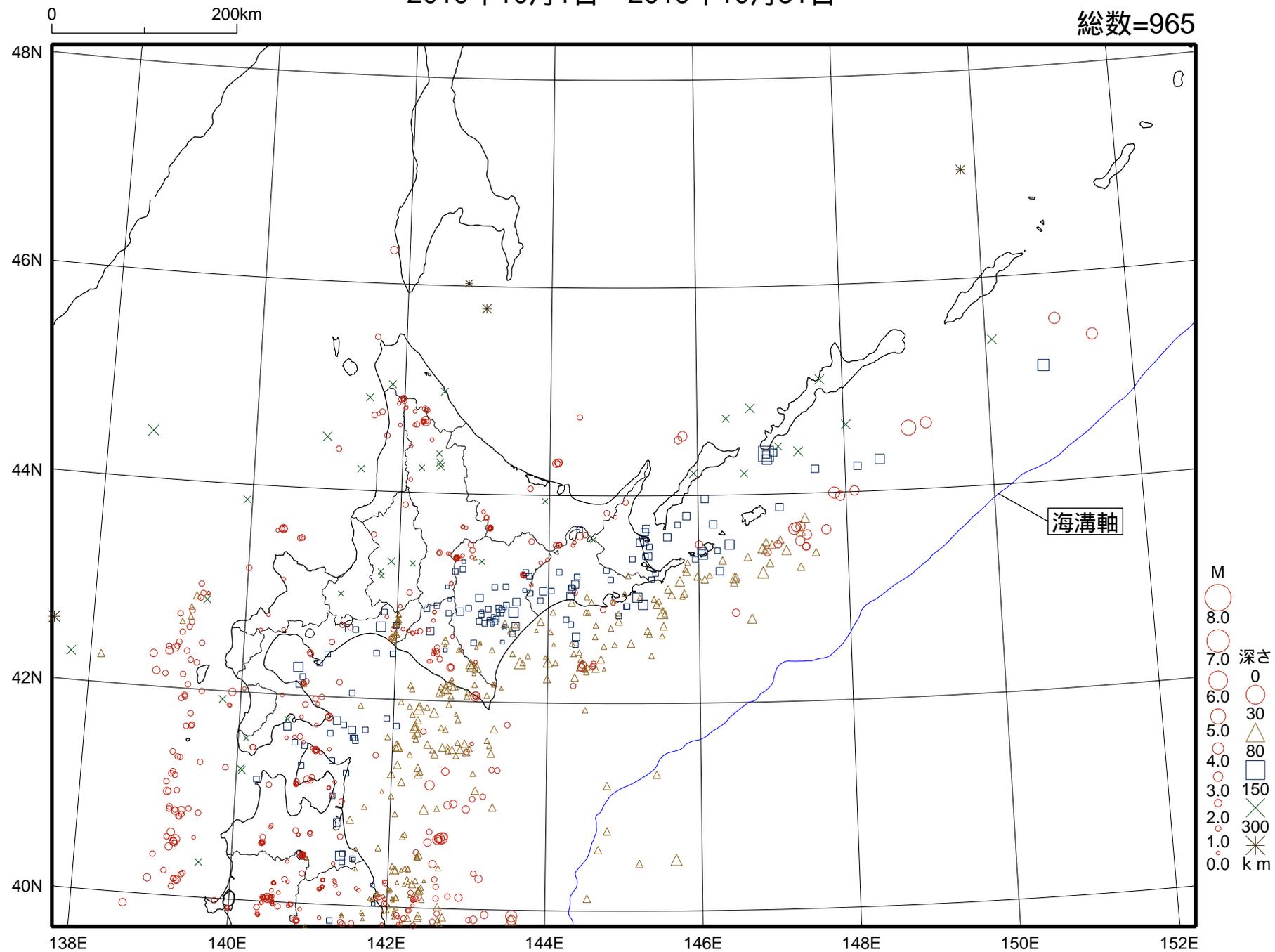
北海道の地震活動図

2019年10月1日 ~ 2019年10月31日

札幌管区気象台

震央分布図

総数=965



震度 1 以上を観測した地震の表 (2019年10月)

年 月 日 地方	時 分 震度	震央地名 震度観測点名	北緯 (N)	東経 (E)	深さ (km)	規模 (M)
2019年10月 7日 渡島地方	16時25分 震度 2 震度 1	浦河沖 函館市泊町* (16) 函館市新浜町* (06)	41° 44.4 N	142° 17.1 E	66 km	M4.0
2019年10月10日 渡島地方	00時52分 震度 1	青森県東方沖 函館市泊町* (06)	41° 33.3 N	142° 03.3 E	66 km	M3.8
2019年10月18日 渡島地方	11時31分 震度 1	渡島地方東部 函館市新浜町* (13) 函館市日ノ浜町* (11)	41° 48.2 N	141° 09.8 E	5 km	M2.6
2019年10月20日 渡島地方	13時42分 震度 1	浦河沖 函館市泊町* (11) 函館市新浜町* (10) 函館市川汲町* (05)	41° 54.8 N	142° 19.5 E	70 km	M4.1

各地の震度は、渡島・檜山地方のみを掲載しています。

* のついている地点は地方公共団体または国立研究開発法人防災科学技術研究所の震度観測点です。

地震概況ではセントロイドの深さで表現した地震が含まれている場合があります。

震源の緯度、経度、深さ、規模は暫定値であり、データは後日変更することがあります。

()内の数値は0.1単位の詳細な震度(計測震度)の小数点を省略して表しています。

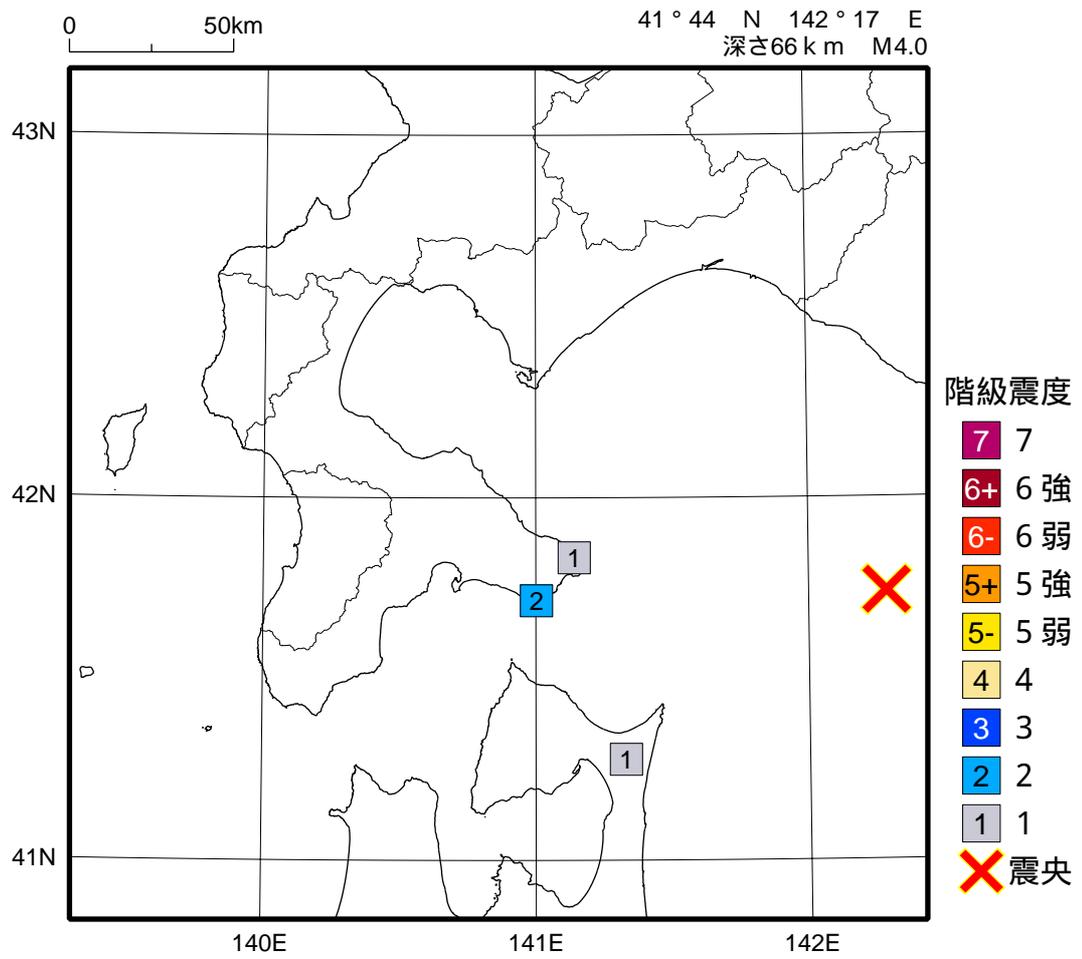
計測震度と震度階級の対応は下表のとおりになっています。

計測震度と震度階級の関係

計測震度	~0.4	0.5~1.4	1.5~2.4	2.5~3.4	3.5~4.4	4.5~4.9	5.0~5.4	5.5~5.9	6.0~6.4	6.5~
震度階級	0	1	2	3	4	5弱	5強	6弱	6強	7

本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点(河原、熊野座)、米国大学間地震学研究連合(IRIS)の観測点(台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東)のデータを用いて作成しています。

2019年10月7日16時25分 浦河沖の地震の震度分布図



【防災メモ】

～気象庁が発表する地震情報について～

気象庁では 24 時間体制で地震・津波を監視しており、地震が発生した場合は、その観測結果を地震情報としてお知らせします。また、津波が予想されないときは、津波の心配がない旨を地震情報に含めて発表しています。地震情報の種類と発表するタイミングについては以下のとおりです。

地震発生！

数秒～十数秒後

「緊急地震速報(警報)」

震度5弱以上の揺れが予想された場合、地震の発生時刻、地震の発生場所(震源)、地震の規模(マグニチュード)、震度4以上が予想される地域名※を発表。

1. 5分～2分後

「震度速報」

震度3以上を観測した場合、震度3以上を観測した地域名※と地震の揺れの検知時刻を速報。

2分～3分後

「震源に関する情報」(津波警報、注意報を発表した場合は発表しない)

震度3以上を観測した地震で、津波による災害のおそれがないと予想される場合に「津波の心配がない」または「若干の海面変動があるかもしれないが被害の心配はない」旨を付加し、震源やマグニチュードを発表。

約5分後

「震源・震度に関する情報」

震源やマグニチュード、震度3以上の地域名※と市町村毎の観測した震度を発表。
震度5弱以上と考えられる地域で、震度を入手していない地点がある場合は、その市町村名を発表。

「各地の震度に関する情報」

震度1以上を観測した地点のほか、震源やマグニチュードを発表。震度5弱以上と考えられる地域で、震度を入手していない地点がある場合は、その地点名を発表。

※緊急地震速報や震度情報で用いる区域の名称は以下を参照

気象庁 HP : <https://www.data.jma.go.jp/svd/eqev/data/joho/shindo-name.html>

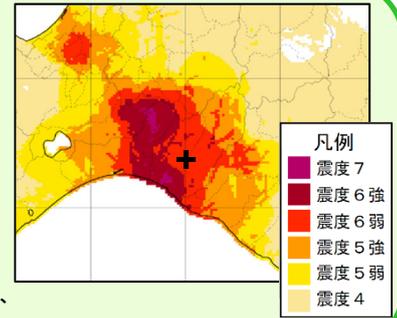
約15分後

「推計震度分布図」

震度5弱以上を観測した場合、観測した各地の震度データをもとに、1km四方ごとに推計した震度（震度4以上）を図情報として発表。

「平成30年北海道胆振東部地震」の推計震度分布図

※この推計震度分布図は震度の精査後に再作成したものであり、地震発生直後に発表したものと一部異なる。

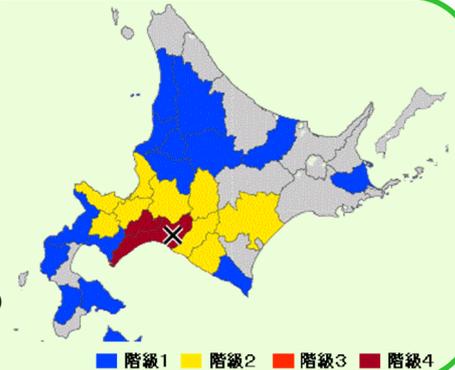


約20分後

「長周期地震動に関する観測情報」

地域ごとに観測された長周期地震動階級（高層ビルなどでの長周期地震動による揺れの大きさの指標）を気象庁HPで公開。

（「平成30年北海道胆振東部地震」の長周期地震動に関する観測情報）



約30分後

「地震解説資料(速報版)」

震度4以上を観測、あるいは津波警報、津波注意報を発表した場合に、自治体や防災機関の初動防災対応支援資料として発表。

「遠地地震に関する情報」

国外でマグニチュード7.0以上の地震、または都市部など著しい被害が発生する可能性がある地域で規模が大きい地震を観測した場合などに、地震の発生時刻や震源、マグニチュード及び日本や国外への津波の影響について発表。

1時間～2時間後

「地震解説資料・報道発表資料」

震度5弱以上を観測、あるいは津波警報、津波注意報を発表した場合に、防災上の留意事項や今後の活動の見通しを、自治体や防災機関の防災対応支援資料として発表。顕著な災害を起こした地震の名称を定めた場合、その後の地震活動状況を解説する場合などに続報を発表することがある。

「その他の情報」

地震が多発した場合の震度1以上を観測した地震の回数を発表。また、顕著な地震において、震源やマグニチュードを精査し更新した際のお知らせを発表。